



IP アドレスおよびホスト名の変更

- [IP アドレスとホスト名の変更のタスク リスト \(1 ページ\)](#)
- [OS Admin GUI による IP アドレスまたはホスト名の変更 \(2 ページ\)](#)
- [Unified CM の管理 GUI による IP アドレスまたはホスト名の変更 \(3 ページ\)](#)
- [CLI による IP アドレスまたはホスト名の変更 \(4 ページ\)](#)
- [IP アドレスのみの変更 \(7 ページ\)](#)
- [CLI による IP アドレスまたはホスト名の変更 \(8 ページ\)](#)

IP アドレスとホスト名の変更のタスク リスト

次の表に、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence Service ノードの IP アドレスとホスト名を変更するために実行するタスクを示します。

表 1: IP アドレスとホスト名の変更のタスク リスト

項目	タスク
1	変更前タスクおよびシステム ヘルス チェックを行います。
2	<p>コマンドライン インターフェイス (CLI) または Unified オペレーティング システム GUI を使用してノードの IP アドレスまたはホスト名を変更します。</p> <p>IM and Presence Service ノードの場合、次の条件に従ってください。</p> <ul style="list-style-type: none">• サブスクライバ ノードを変更する前にデータベース パブリッシャ ノードの IP アドレスとホスト名を変更します。• すべてのサブスクライバ ノードの IP アドレスとホスト名を同時に変更する、もしくは、一度に 1 つずつ変更することが可能です。 <p>(注) IM and Presence Service ノードの IP アドレスまたはホスト名を変更した後、Cisco Unified Communications Manager の SIP パブリッシュ トランクの接続先アドレス値を変更する必要があります。変更後タスク リストを参照してください。</p>

項目	タスク
3	変更後タスクを実行します。

OS Admin GUI による IP アドレスまたはホスト名の変更

Cisco Unified Operating System Administration を使用して、導入のホスト名で定義されているパブリッシャーおよびサブスクリバノードの IP アドレスまたはホスト名を変更することができます。特に明記されていない限り、この手順の各ステップは、Unified Communications Manager および IM and Presence Service クラスタ上のパブリッシャーノードとサブスクリバノードの両方に適用されます。

set network hostname コマンドでホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。これにより、クラスタ内のすべてのデバイスがリセットされ、更新された ITL ファイルをダウンロードできるようになります。クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。

set network hostname コマンドを使用して IP アドレスのみを変更すると、クラスタ内のすべてのデバイスがリセットされ、更新された ITL ファイルをダウンロードできるようになります。証明書は更新されません。



(注) ホスト名を変更しても、ITL 回復証明書の再生成はトリガーされません。



注意

- Cisco ユニファイドオペレーティングシステムの管理では、これらの設定の1つだけを一度に変更することをお勧めします。IP アドレスとホスト名の両方を同時に変更するには、CLI コマンド **set network hostname** を使用します。
- Unified Communications Manager のセキュリティクラスタが混合モードで実行されている場合にホスト名または IP アドレスを変更すると、このノードへのセキュア接続は、CTL クライアントを実行して CTL ファイルを更新しない限り（またはトークンレス CTL 機能を使用している場合は **utils ctl update CTLFile** を実行しない限り）失敗します。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。



(注) vcenter から vNIC を変更する必要がある場合は、CLI コマンド **set network hostname** を使用する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Operating System Administration から、[設定 (Settings)] > [IP] > [イーサネット (Ethernet)] の順に選択します。

ステップ 2 ホスト名、IP アドレス、また必要に応じてデフォルトのゲートウェイを変更します。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ノードサービスが新しい変更内容で自動的に再起動します。サービスを再起動することで、更新とサービス再起動のシーケンスを適切に実行して、変更を有効にすることができます。

ホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。また、更新された ITL ファイルをダウンロードできるように、クラスタ内のすべてのデバイスがリセットされます。ホスト名を変更しても、ITL 回復証明書の再生成はトリガーされません。

次のタスク

導入の変更が正しく実行されていることを確認するすべての該当する変更後の作業を実行します。



(注) 新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決されない場合は、次の手順に進まないでください。

クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。

CTL クライアントを実行して、そのプロセスを使用してクラスタを混合モードにする場合は、ctl ファイルを更新します。トークンレス CTL 機能を使用した場合は、CLI コマンドユーティリティの `ctl Update CTLFile` を実行します。

Unified CM の管理 GUI による IP アドレスまたはホスト名の変更

Cisco Unified CM Administration を使用して、パブリッシャおよびサブスクライバノードのデータベースで定義された IP アドレスまたはホスト名を変更することができます。これにより、ホスト名のエントリがシステム定義のホスト名または IP 値で統一されます。

IP アドレスまたはホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。これにより、クラスタ内のすべてのデバイスがリセットされ、更新された ITL ファイルをダウンロードできるようになります。クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。

**注意**

- ホスト名または IP アドレスを変更すると、システムサービスを再起動する必要があります。したがって、通常の営業時間中にはこの変更を行わないでください。
- Cisco Unified CM の管理では、これらの設定の1つだけを一度に変更することをお勧めします。IP アドレスとホスト名の両方を同時に変更するには、CLI コマンド **set network hostname** を使用します。
- Unified Communications Manager のセキュリティ クラスタが混合モードで実行されている場合にホスト名または IP アドレスを変更すると、このノードへのセキュア接続は、CTL クライアントを実行して CTL ファイルを更新しない限り（またはトークンレス CTL 機能を使用している場合は **utils ctl update CTLFile** を実行しない限り）失敗します。
- Cisco Unified OS の管理ページと Cisco Unified CM の管理ページで定義されているホスト名または IP アドレスが一致しない場合、アプリケーションは正しい電話ステータスを取得できません。また、証明書の不一致により、TLS ハンドシェイクが失敗します。したがって、Cisco Unified OS の管理ページと Cisco Unified CM の管理ページの両方の IP アドレスとホスト名のエントリが同じであることを確認してください。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択します。
[サーバの検索/一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** すべてのサーバのリストを取得するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** リストから、ホスト名を変更するサーバをクリックします。
- ステップ 4** [ホスト名/IP アドレス* (Host Name/IP Address*)] フィールドに、ネットワーク サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** Admin CLI GUI を使用して、**utils system restart CLI** コマンドを使用してノードを再起動します。

CLI による IP アドレスまたはホスト名の変更

導入のホスト名で定義されているパブリッシャおよびサブスクリバノードの IP アドレスまたはホスト名を変更するには、CLI を使用できます。特に明記されていない限り、この手順の各ステップは、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence Service クラスタのパブリッシャノードとサブスクリバノードの両方に適用されます。

ホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。これにより、クラスタ内のすべてのデバイスがリセットされ、更新されたITLファイルをダウンロードできるようになります。クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。ホスト名を変更しても、ITL 回復証明書の再生成はトリガーされません。



注意 Cisco Unified Communications Manager のセキュリティ クラスタが混合モードで実行されている場合にホスト名または IP アドレスを変更すると、このノードへのセキュア接続は、CTL クライアントを実行して CTL ファイルを更新しない限り（またはトークンレス CTL 機能を使用している場合は **utils ctl update CTLFile** を実行しない限り）失敗します。



(注) Unified Communications Manager およびインスタント メッセージおよびプレゼンスサーバで IP / ドメイン/ホスト名を変更するプロセス中の障害を回避するために、COP ファイルをインストールする必要があります。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。

手順

- ステップ 1 変更するノードの CLI にログインします。
- ステップ 2 **set network hostname** と入力します。
- ステップ 3 ホスト名、IP アドレス、またはデフォルト ゲートウェイを変更するためのプロンプトに従います。
 - a) 新しいホスト名を入力し、**Enter** キーを押します。
 - b) IP アドレスも変更する場合は、**yes** と入力します。その他の場合は、ステップ 4 に進みます。
 - c) 新しい IP アドレスを入力します。
 - d) サブネット マスクを入力します。
 - e) ゲートウェイのアドレスを入力します。
- ステップ 4 入力内容がすべて正しいことを確認し、**yes** と入力して、プロセスを開始します。

次のタスク

導入の変更が正しく実行されていることを確認するすべての該当する変更後の作業を実行します。



(注) 新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決されない場合は、次の手順に進まないでください。

クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。

CTL クライアントを実行して、そのプロセスを使用してクラスタを混合モードにする場合は、ctl ファイルを更新します。トークンレス CTL 機能を使用した場合は、CLI コマンドユーティリティの **ctl Update CTLFile** を実行します。

Set Network Hostname の CLI 出力例



(注) vNIC を vcenter から変更する必要がある場合は、次の出力に示すように、ステップ 4/5 のコンポーネント通知スクリプト `regenerate_all_certs.sh` の後に vNIC を更新します。

```
admin:set network hostname ctrl-c: To quit the input. *** W A R N I N G ***
Do not close this window without first canceling the command. This command will
automatically restart system services. The command should not be issued during
normal operating hours. =====
Note: Please verify that the new hostname is a unique name across the cluster
and, if DNS services are utilized, any DNS configuration is completed before
proceeding. ===== Security
Warning : This operation will regenerate all CUCM Certificates including any
third party signed Certificates that have been uploaded. Enter the hostname::
newHostname Would you like to change the network ip address at this time
[yes]:: Warning: Do not close this window until command finishes. ctrl-c: To
quit the input. *** W A R N I N G ***
===== Note: Please verify
that the new ip address is unique across the cluster.
===== Enter the ip address::
10.10.10.28 Enter the ip subnet mask:: 255.255.255.0 Enter the ip address of
the gateway:: 10.10.10.1 Hostname: newHostname IP Address: 10.10.10.28 IP
Subnet Mask: 255.255.255.0 Gateway: 10.10.10.1 Do you want to continue [yes/no]?
yes calling 1 of 5 component notification script: ahostname_callback.sh Info(0):
Processnode query returned = name ===== bldr-vcml8 updating server table
from:'oldHostname', to: 'newHostname' Rows: 1 updating database, please wait
90 seconds updating database, please wait 60 seconds updating database, please
wait 30 seconds Going to trigger /usr/local/cm/bin/dbl updatefiles
--remote=newHostname,oldHostname calling 2 of 5 component notification script:
clm_notify_hostname.sh notification Verifying update across cluster nodes...
platformConfig.xml is up-to-date: bldr-vcml21 cluster update successfull calling
3 of 5 component notification script: drf_notify_hostname_change.py calling
4 of 5 component notification script: regenerate_all_certs.sh calling 5 of 5
component notification script: update_idsendv.sh calling 1 of 2 component
notification script: ahostname_callback.sh Info(0): Processnode query returned
= name ==== Going to trigger /usr/local/cm/bin/dbl updatefiles
--remote=10.10.10.28,10.67.142.24 calling 2 of 2 component notification script:
clm_notify_hostname.sh Verifying update across cluster nodes... Shutting down
interface eth0:
```

IP アドレスのみの変更

CLI を使用して、ノードの IP アドレスを変更できます。

ノードがホスト名または FQDN によって定義されている場合は、変更を行う前に DNS のみを更新する必要があります (DNS が使用されている場合)。



(注) IM and Presence Service の場合 :

- 最初に IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを変更して確認します。
- IM and Presence Service サブスクリバ ノードは、同時にまたは 1 つずつ変更できます。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステム ヘルス チェックを実行します。

手順

ステップ 1 変更するノードの CLI にログインします。

ステップ 2 `set network ip eth0 new-ip_address new_netmask new_gateway` を入力して、ノードの IP アドレスを変更します。

(注) `set network ip eth0` コマンドでのみ IP アドレスを変更しても、証明書の再生成はトリガーされません。

ここで、`new_ip_address` は新しいサーバ IP アドレスを指定し、`new_netmask` は新しいサーバ ネットワーク マスクを指定します。また、`new_gateway` はゲートウェイアドレスを指定します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network ip eth0 10.53.57.101 255.255.255.224 10.53.56.1 WARNING:
Changing this setting will invalidate software license on this server. ライセン
スは再ホストする必要があります。Continue (y/n)?
```

ステップ 3 CLI コマンドの出力を確認します。 `yes` を入力してから、`Enter` を押して処理を開始します。

次のタスク

導入の変更が正しく実行されていることを確認するすべての該当する変更後の作業を実行します。

ネットワーク IP アドレスの設定の出力例



Note vNIC を vcenter から変更する必要がある場合は、次の出力に示すように、ステップ 3/6 のコンポーネント通知スクリプト `aetc_hosts_verify.sh` の後に vNIC を更新します。

```
admin:set network ip eth0 10.77.30.34 255.255.255.0 10.77.30.1 *** W A R N I
N G *** This command will restart system services
===== Note: Please verify
that the new ip address is unique across the cluster and, if DNS services are
utilized, any DNS configuration is completed before proceeding.
===== Continue (y/n)?y calling
1 of 6 component notification script: acluster_healthcheck.sh calling 2 of 6
component notification script: adns_verify.sh No Primary DNS server defined
No Secondary DNS server defined calling 3 of 6 component notification script:
aetc_hosts_verify.sh calling 4 of 6 component notification script: afupdateip.sh
calling 5 of 6 component notification script: ahostname_callback.sh Info(0):
Processnode query returned using 10.77.30.33: name ==== calling 6 of 6 component
notification script: clm_notify_hostname.sh
```

CLI による IP アドレスまたはホスト名の変更

CLI を使用して、展開内のパブリッシャ ノードとサブスクライバノードの DNS IP アドレスを変更することができます。この手順は、Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードとサブスクライバノード、および IM and Presence サービスクラスタの両方に適用されます。



(注) DNS サーバーレコードのいずれかに変更がある場合、または DNS サーバー自体に変更がある場合、ユーザは `nscd` サービスを再起動する必要があります。この再起動により、キャッシュレコードがクリアされ、新しいレコードがキャッシュにロードされます。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。

手順

ステップ 1 変更するノードの CLI にログインします。

ステップ 2 `set network dns primary/secondary <new IP address of the DNS>` と入力します。

(注) DNS サーバの IP アドレスを変更する場合は、ユーティリティシステム再起動 CLI コマンドを使用してサーバを再起動する必要があります。

以下の出力が表示されます。


```
admin:set network dns primary/secondary <new IP address of DNS> *** W A R N I  
N G *** This will cause the system to temporarily lose network connectivity
```

ステップ 3 CLI コマンドの出力を確認します。はいを入力して、**Enter** キーを押して処理を開始します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。